







対策に取組んで頂いた結果指導者も増え、本校には五十九年、大学時代にボートの選手であった山本哲嗣先生が赴任されました。それに伴い部活動も一段と活発になり、女子部員も増え、「六十三滋賀総体」では女子に新設された「舵手つきフォア」で優勝、第一回大会に記念の記録を刻んでくれました。この年の「京都国体」では、残念ながら優勝はできませんでしたが、準優勝、総合八位以内入賞に貢献、その後十年の間に何度も全国大会に出場しました。現在はその学校も部員獲得が課題になっていますが、伝統有る本校の部もその火を絶やさないように受け継いでほしいと願っています。

また、昭和六十年に入ると、日本の代表的なストライカーである釜本氏や二村氏を輩出したサッカー部も、約二十年程の長い低迷から脱出し府大会で優勝、全国高校選手権大会に出場、その後同大会や全国高校総体等の全国大会への常連となり、平成五年の正月には国立競技場で準優勝の偉業を達成。彼等の中から「リーグに進んだものも何人か出ました。同窓会をはじめ多くの方々のご援助のお蔭で、正月に関東での同大会の応援に何回も携わることができたことも、今後二度とできない経験で幸せだったと感じています。

一方、勉強面でも昭和六十年度の高校制度改革で、山城高校は北通学園に属し、自由な校風で伝統もあり通学園内六校の中

で類・類型を問わず希望する生徒が一番多く、活気ある学園はその後も引き継がれていることと思います。

校舎改築も、昭和五十五年竣工のW館はその建設に当たって寝殿造りの遺構が出土、設計変更され予定より一年遅れで完成、続くN館・食堂・プール建設などが進み、併せて同窓会寄贈による校門・玄関前庭改修整備等、学校として落ち着いた環境が整いました。

後になりましたが、こうした教育活動を陰ながら支えて下さっている同窓会の活動は、在校生にとって大きな励みであり、深く敬意を表すると共に、京三中山城同窓会が今後ますます充実・発展されますことを御祈念申し上げます。

